

付記

観光研究

ここでは、日本の観光の発展に寄与する学術面での「観光研究の動き」を概観する。

(1) 日本国内の観光関連学会

2025年8月時点で、日本学術会議のウェブサイトに掲載されている「日本学術会議協力学術研究団体」のうち、学会名称に「観光」、「ツーリズム」、「旅行」、「リゾート」、「余暇」、「レジャー」、「レクリエーション」、「ホスピタリティ」のいずれかの語を含み観光研究を行う学会は、12団体ある(表 付記-1)。

このほか、「日本学術会議協力学術研究団体」には掲載されていないものの、観光関連の学会活動を行っている団体には、日本旅行医学会(2002年設立)、日本フードツーリズム学会(2009年設立)、ロングステイ観光学会(2016年設立)がある。また、2024年度内に、日本ヘルスツーリズム学会の設立に向けて準備研究会を開催する動きが見られた。

①全国大会

2024年度に開催された各学会の全国大会の統一テーマを見ると、日本観光学会では“インバウンドの回復と地域における観光”、日本レジャー・レクリエーション学会では“まちづくりとレジャー・レクリエーション”、余暇ツーリズム学会では“オーバーツーリズムを超えて”、日本ホスピタリティ・マネジメント学会では“我が国の観光政策とホスピタリティ産業の現場”、日本観光ホスピタリティ教育学会では“大阪・関西万博を契機とした新たな観光ホスピタリティ教育のデザイン”といったように、インバウンドやオーバーツーリズム、大阪・関西万博等、時宜を得たテーマ設定がなされている。

②機関誌・学会誌

各学会が発行する機関誌・学会誌は合計14誌(日本語13、英語1)。2024年度に発行された機関誌・学会誌で設定されていた特集テーマには、“観光と能登一震災・豪雨災害からの復興をどう考えるか”(日本観光研究学会)、“AI革命による観光の変革”(観光情報学会)、“ジェンダーとツーリズム—多角的な視座の探究”(観光学術学会)、“観光とヘリテージの相互作用の行方”(観光学術学会)等があった。

(2) 大学・大学院

文部科学省の「大学・短期大学・高等専門学校・法人一

覧」等をもとに、学部・学科の名称のいずれか、あるいは研究科・専攻の名称のいずれかに「観光」、「ツーリズム」、「ホスピタリティ」のいずれかの語を含むものを観光関連としてカウントすると、2024年4月1日時点で、全国の大学に設置された学部・学科のうち観光関連のものは45、大学院の研究科・専攻のうち観光関連のものは10であった。また、学部・学科と大学院の研究科・専攻のいずれか、もしくは双方を設置している大学数は47であった。

次に、文部科学省の「年度別開設大学等一覧」をもとに、2024年度内に行われた学部・学科や研究科の新規開設や廃止、名称変更等の動きを参照する。まず、宝塚医療大学は2024年4月に観光学部観光学科を開設した。英語・データサイエンス・医療の知識を活かし、1年次は沖縄県宮古島キャンパス学生寮で共同生活をしながら地域観光を体験し、2年次以降は兵庫県尼崎市で専門知識を深め、長期インターンシップで実践力を養い、観光業界のプロを育成するとしている。

また、跡見学園女子大学は、「まちづくり」のコンセプトがより伝わりやすくなることを意図して、2024年4月に観光コミュニティ学部のコミュニティデザイン学科をまちづくり学科に名称変更した。

(3) 科学研究費助成事業における観光学の扱い

2024年度の科学研究費(科研費)助成事業の「観光学関連」(小区分80020)等における新規採択は83件で、研究種目の内訳は、基盤研究(B)11件、基盤研究(C)53件、若手研究19件であった(表 付記-2)。配分される科学研究費の合計は約4億6千万円、その内訳は、100万円以上500万円未満が72件、1千万円以上5千万円未満が11件となっている。

研究のキーワードとしては「観光」9件、「持続可能な観光」5件、「観光行動」・「観光資源」各4件、「イベント」3件といったものがあった。そのほか、「AI」、「DMO」、「まちづくり」、「インバウンド」、「オーバーツーリズム」、「サステイナブルツーリズム」、「ツーリズム」、「ビッグデータ」、「ベトナム」、「ライフスタイル移住」、「人流データ」、「国立公園」、「地域活性化」、「環境保全」、「自然観光資源」といったキーワードが2件となっている。

新規採択件数を研究機関(大学)別に見ると、2件以上採択されたのは10大学(沖縄国際大学、金沢大学、九州産業大学、東京都立大学、東洋大学、北海道大学、立教大学、立命館大学、琉球大学、和歌山大学)であった(表 付記-3)。

(菅野正洋)

表 付記-1 国内の観光関連学会の概要

	学会名・会員数 (2025年度)	会長、本部／事務局、支部 (2025年度)	大会や研究会等 (2024年度)	学会誌(機関誌)、大会論文集 (2024年度)
1	日本観光学会 Japan Academic Society of Tourism (JAST) ○正会員 219名 ○準会員(大学院生・大学生) 50名 ○賛助会員 1名 (2025年6月時点)	【会長】 大江靖雄(東京農業大学) 【本部事務局】 青山学院大学 社会情報学部 長橋透研究室内 【支部】 北海道・東北支部、関東支部、中部支部、関西・ 中四国支部、九州・沖縄支部	○全国大会(年1回、研究報告、シンポジウム、学会総 会等) ・2024年度(第117回)大会 ・大会テーマ:インバウンドの回復と地域における観光 ○支部会 ・北海道・東北、関東、中部、関西・中四国、九州・沖縄の 各支部会の開催 ○第7回学生観光プレゼン大会 ・関東支部主催 ○2024年度観光教育(高大連携)フォーラム ・九州・沖縄支部	【学会誌】 『日本観光学会誌』(1996年～、年1回) (前身『日本観光学会研究報告』1961～1995年) ・2024年度 第65号:論文5編、研究ノート5編 【大会論文集】 『研究発表要旨集』(年1回)
2	日本レジャー・レクリエーション学会 Japan Society of Leisure and Recreation Studies(JSLRS) ○正会員 250名 ○購読会員 19団体 (2025年3月時点)	【会長】 沼澤秀雄(立教大学) 【事務局】 昭和女子大学 人間社会学部 山梨みほ研究室内 【支部】 なし	○学会大会(年1回、地域研究、基調講演、シンポジウ ム、研究発表、ワークショップ、総会等) ・2024年度(第54回)大会 ・大会テーマ:まちづくりとレジャー・レクリエーション ○第8回研究交流会	【学会誌】 『レジャー・レクリエーション研究』 (1992年～、年3回) (前身『レクリエーション研究』1965～1991年) ・2024年度 第103号:原著5編、研究資料1編 第104号:第54回大会特集号 第105号:原著3編、研究資料1編、実践研究1編 【大会論文集】 なし(学会誌に発表要旨を掲載)
3	余暇ツーリズム学会 The Association for Leisure and Tourism Studies ○正会員 158名 ○準会員 5名 ○名誉会員 3名 (2025年9月時点)	【会長】 長谷川恵一(早稲田大学) 【本部事務局】 東洋大学 国際観光学部 吉岡勉研究室内 【支部】 関東支部、九州支部	○学会大会(年1回、自由論題報告、会員総会、統一論 題報告、討論等) ・2024年度大会 ・統一論題:オーバーツーリズムを超えて ○支部大会(年1～2回、研究発表等) ○研究部会(ライフスタイル研究部会、ヘルス・スポー ツツーリズム研究部会、レジャー・スタディーズ研 究部会、エンタテインメント・ツーリズム研究部会、 プライダル研究部会、ツーリズム心理研究部会、学 生教育研究部会、フードツーリズム研究部会、宿泊 研究部会)	【学会誌】 『余暇ツーリズム学会誌』(2014年3月～、年1回) (前身『余暇学研究』1998～2013年、『ツーリ ズム学会誌』2001～2012年) ・2024年度 第12号:論文5本、研究ノート9本、基調講演1 本、統一論題報告3本
4	一般社団法人日本観光研究学会 Japan Institute of Tourism Research (JITR) ○正会員 1,136名 ○準会員 2名 ○名誉会員 10名 ○賛助会員 3団体 ○特別会員 6団体 (2025年7月16日時点)	【会長】 熊谷圭介(長野大学) 【事務局】 東京都豊島区西池袋4-16-19 コンフォルト池袋106 【支部】 関西支部、九州・韓国南部支部、東北支部	○全国大会(年1回、講演会、シンポジウム、研究発表等) ・2024年度(第39回)大会 ・シンポジウムテーマ:大阪・関西万博を観光から考 える ○研究分科会 ○研究懇話会(年2回) ○能登半島地震・特別プロジェクト研究会 ○定時総会・シンポジウム ・シンポジウムテーマ:観光振興における地域金融機 関の役割を探る	【学会誌】 『観光研究』(1987年～、年2回) ・2024年度 Vol.36 No.1:論文5編、研究ノート3編 Vol.36 No.2:論文4編、研究ノート2編、特集 (観光と能登一震災・豪雨災害 からの復興をどう考えるか) Vol.36 No.3:特集号 第39回全国大会学術論 文(査読付き部門)12編* 【大会論文集】 『全国大会学術論文集』(1986年～、年1回)* ※冊子版を廃止しダウンロード版のみ
5	日本国際観光学会 Japan Foundation for International Tourism(JAFIT) ○正会員 371名 ○学生会員 44名 (大学院生・大学生・短期大学生・専門学校生) ○名誉会員 2名 ○賛助会員 2団体 (2025年5月時点)	【会長】 崎本武志(江戸川大学) 【事務局】 東京都千代田区二番町1-2 番町ハイム701 【支部】 なし	○全国大会(年1回、基調講演、研究発表等) ・2024年度(第28回)大会 ・パネルディスカッションテーマ:『観光と外交』研究 の視座と可能性	【学会誌】 『日本国際観光学会論文集』(1993年～、年1回) ・2024年度 第32号:論文3編、研究ノート6編 『日本国際観光学会自由論集』(2017年～、年1回) ・2024年度 自由論集第8号 【大会論文集】 『全国大会梗概集』(2001年～、年1回発行) ・2024年度 第28回全国大会梗概集
6	日本ホスピタリティ・マネジメント学会 Japan Academic Society of Hospitality Management(JASH) ○正会員 220名 ○学生会員 13名 ○名誉会員 7名 (2025年8月時点)	【会長】 藤井享(豊橋技術科学大学総合教育院) 【本部／事務局】 江戸川大学 社会学部 崎本武志研究室内 【支部】 北海道支部、関東支部、関西支部、九州支部	○全国大会(年1回、研究発表、年次総会、基調講演、パ ネルディスカッション等) ・2024年度(第32回)大会 ・統一論題:我が国の観光政策とホスピタリティ産業 の現場 ○研究発表会	【学会誌】 『HOSPITALITY』 (1993年～2012年度:年1回、2013～2015 年度:年2回、2016年度～:年1回) ・2024年度 第35号:論文10編、研究ノート1編 『INTERNATIONAL JOURNAL OF JAPAN ACADEMIC SOCIETY OF HOSPITALITY MANAGEMENT SOCIETY』(2012年～、年1回(2013 年は年2回)) ・2024年度 Vol.11 No.1:論文7編
7	観光まちづくり学会 The Society of Tourism and Community Design ○正会員 104名 (個人会員101名、法人会員3名) ○学生会員 4名 ○名誉会員 6名 (2025年4月1日時点)	【会長】 深田秀実(青森公立大学) 【本部事務局】 公立大学法人青森公立大学経営経済学部 深田研究室内 【支部】 北海道支部(2008年～)	○観光まちづくり学会いわき大会(役員会、会員総会、 研究発表会、情報交換会、エクスカッション等)	【学会誌】 『観光まちづくり学会誌』(2003年～、年1回) ・2024年度 Vol.18-21合併号:論文6編、研究ノート1編 【大会論文集】 なし(学会誌及び学会のウェブサイトに掲載)
8	日本観光ホスピタリティ教育学会 The Japanese Society of Tourism and Hospitality Educators(JSTHE) ○正会員 191名 ○準会員 5名 ○特別会員 2団体 ○名誉会員 3名 (2025年8月時点)	【会長】 中村哲(玉川大学) 【事務局】 杏林大学 観光交流文化学科 古本泰之研究室内 【支部】 なし	○全国大会(年1回、研究報告、教育実践報告、シンポ ジウム、ワークショップ等) ・2024年度(第24回)大会 ・大会テーマ:大阪・関西万博を契機とした新たな観 光ホスピタリティ教育のデザイン ○総会・シンポジウム(年1回) ○研究会(年2回)	【学会誌(機関誌)】 『観光ホスピタリティ教育』(2006年～、年1回) ・2024年度 発刊なし (発刊時期変更、2025年中に第18号を発行予定) 【大会論文集】 『全国大会発表要旨集』(年1回)

	学会名・会員数 (2025年度)	会長、本部／事務局、支部 (2025年度)	大会や研究会等 (2024年度)	学会誌(機関誌)、大会論文集 (2024年度)
9	特定非営利活動法人観光情報学会 Society for Tourism Informatics(STI) ○正会員 151名 ○学生賛助会員 38名 ○ゴールド賛助会員 4名 ○個人賛助会員 5名 ○企業・団体会員A 2団体 ○企業・団体会員B 6団体 (2025年8月時点)	【会長】 鈴木恵二(公立ほこだて未来大学) 【事務局】 北海道情報大学 情報メディア学部 斎藤一研究室内 【支部】 なし	○全国大会(年1回、基調講演、パネル討論、学術講演セッション、総会等) ・2024年度(第20回)大会 ○研究発表会(年2回、研究発表、エキスカッション) ○オーバーツーリズム研究会	【学会誌】 『観光と情報』(2005年度～、年1回) ・2024年度 第20巻:特集(AI革命による観光の変革)3編、 学術研究論文5編 【大会論文集】 『全国大会講演予稿集』(2004年度～、年1回)、 『研究発表会講演論文集』(2009年度～、年2回)
10	コンテンツツーリズム学会 The Academy of Contents Tourism(ACT) ○正会員 121名 うち学生会員(大学院生・大学生) 36名 (2025年8月時点)	【会長】 増淵敏之(法政大学文学部／法政大学大学院) 【事務局】 文教大学 国際学部 清水麻帆研究室内 【支部】 なし	○論文発表大会(年1回、基調講演、論文発表等) ・2024年度(第12回)大会・基調講演:「アニメコンテンツを活用したまちづくり」頼重秀一(沼津市長) ・論文発表大会 ○シンポジウム(年1回) コンテンツツーリズム学会・久留米大学経済学部共催 ・2024年度テーマ:地域の物語をめぐる ー基調講演1:「地域の持続可能性とツーリズムー筑後川流行での実践から」駄田井正(久留米大学名誉教授) ー基調講演2:「久留米とコンテンツツーリズムー野田宇太郎を中心に」増淵敏之(法政大学大学院教授) ーパネルディスカッション ○「江戸川乱歩保作品を巡る」街歩きツアー ○研究会(不定期開催)	【学会誌】 『コンテンツツーリズム学会論文集』(2014年度～、年1回) ・2024年度 Vol.12:論文1本、調査報告1本、書評2本、特集「静岡県沼津市×ラブライブ!サンシャイン!!」頼重市長の寄稿を含め3本
11	観光学術学会 Japan Society for Tourism Studies(JSTS) ○名誉会員 1名 ○正会員(一般) 351名 ○正会員(大学院生) 79名 ○正会員(シニア) 7名 ○機関会員 7機関 (2025年9月1日時点)	【会長】 遠藤英樹(立命館大学) 【事務局】 (有)CR-ASSIST(大阪府) 【支部】なし	○全国大会(年1回、シンポジウム、フォーラム、一般研究発表、大学院生育成セミナー、学生ポスターセッション等) ・2024年度(第13回)大会 ・大会シンポジウムテーマ:観光とヘリテージの相互作用は何を生み出すのか ・フォーラムテーマ:万博に向けてグレーターミナミ構想で大阪府南部を活性化する戦略 ○研究集会(年1回、シンポジウム、大学院生育成セミナー) ・2024年度(第12回)研究集会 ・シンポジウムテーマ:観光と文学ー虚構と現実を創造する力の可能性を問直す	【学会誌】 『観光学評論』(2012年度:年1回、2013年度～:年2回) ・2024年度 Vol.12 No.2:原著論文1編、展望論文1編、萌芽論文1編、特集論文(ジェンダーとツーリズムー多角的な視座の探究)4編 Vol.13 No.1:原著論文2本、特集論文(観光とヘリテージの相互作用の行方)論文4編 【大会論文集】 『全国大会発表要旨集』(2012年度～、年1回)
12	一般社団法人日本観光経営学会 The Japan Society of Tourism Business Research(JSTBR) ○正会員 151名 ○準会員 25名 (2025年6月時点)	【会長】 西村典芳(流通科学大学) 【事務局】 立命館大学大学院 経営管理研究科 大島知典研究室内 【支部】 なし	○観光経営カンファレンス ・2024年度 ・大会テーマ:これからの観光人材育成と観光経営 ○次世代観光経営フォーラム ○研究会 ・テーマ:大阪・関西万博の最新情報と地域観光へのインパクト	【学会誌】 『観光マネジメント・レビュー "Japan Tourism Management Review"』(2021年度～、年1回) ・2024年度 5巻:研究論文1編、実践研究論文5編、実践報告1編、フォーラム1編、学会報告3編

(注)日本学術会議のウェブサイトに掲載されている「日本学術会議協力学術研究団体」のうち、学会名称に「観光」、「ツーリズム」、「旅行」、「リゾート」、「余暇」、「レジャー」、「レクリエーション」、「ホスピタリティ」のいずれかの語を含み観光研究を行う団体を「国内の観光関連学会」として抽出した。日本健康レクリエーション学会は、健康、医療、看護、介護、教育を主な研究領域としていることから対象外とした。

資料:各学会のウェブサイト、各学会への聞き取り調査をもとに(公財)日本交通公社作成(2025年9月時点)

表 付記-2 科学研究費「観光学関連」等の新規採択研究課題(2024年度～)

	研究課題名	研究種目	研究機関
1	自然観光地を対象としたオーバーツーリズムを抑制する政策手法の比較分析	基盤研究(B)	九州大学
2	感染症拡大と気候変動を受けたルールツーリズム実践者の意識と行動の変化	基盤研究(B)	帝京大学
3	地域観光政策評価技術のイノベーションー人流等ビッグデータによる政策効果の因果推論	基盤研究(B)	東京都市大学
4	広域周遊観光における移動等のアクセシビリティの連続性と連携に関する実証研究	基盤研究(B)	東北福祉大学
5	ゼロカーボン観光交通の確立に向けてーGHG排出量と再生可能エネルギー利用率の考慮ー	基盤研究(B)	東洋大学
6	衰退観光地のリノベーションに向けた計画論的研究	基盤研究(B)	東洋大学
7	観光人流データを活用した障がい者の移動と環境負荷に対する基盤的研究	基盤研究(B)	横浜国立大学
8	シニアツーリズムにおける心理的機能ーCREモデルの検証ー	基盤研究(B)	立教大学
9	「勾い環境」による観光体験の質的向上と観光地域計画への応用に関する研究	基盤研究(B)	立教大学
10	ツーリズム・モビリティーズの現在・課題・可能性ー地域の持続可能性を志向する研究	基盤研究(B)	立命館大学
11	リジェネラティブ論に基づくデスティネーション・ウェルビーング評価モデル構築と実践	基盤研究(B)	和歌山大学
12	暗黙知習得プロセスに着目した中小規模旅館における体系的な人材育成モデルの探求	基盤研究(C)	愛知淑徳大学
13	観光者の問題行為としてのリスクテイキング行動に関する研究	基盤研究(C)	愛知東邦大学
14	地図に描かれた熱帯とヴァンキュラーな風景の生成に関する観光資源論的研究	基盤研究(C)	亜細亜大学
15	農泊の地域運営化と多様性対応による持続的発展への転換過程と支援方策	基盤研究(C)	宇都宮大学
16	観光・まちづくりにおける「ご当地スポーツ」の価値・資源性に関する研究	基盤研究(C)	大阪成蹊大学
17	コンテンツツーリズムの「集合知」を形成する「解釈共同体」の実態調査研究	基盤研究(C)	大手前大学
18	観光地域づくりに参画する企業の社会的効用と自社経営への影響分析	基盤研究(C)	岡山理科大学
19	The Smart Tourism Experience: A Tourist-Centric Conceptualization and Empirical Investigation	基盤研究(C)	小樽商科大学
20	日本の地域貢献型DMO形成に向けた必須KPIへのアプローチー混合研究法を用いてー	基盤研究(C)	開志専門職大学
21	Antecedents and consequences of cruise travel experience: Identifying contributors to well-being of cruise tourists.	基盤研究(C)	金沢大学
22	本物体験につながるストーリーの解明:ジオパークにおける本物体験の検証とモデル構築	基盤研究(C)	金沢大学
23	訪日ベジタリアン旅行者の日本における食の満足度とニーズの解明	基盤研究(C)	金沢大学
24	厳冬期に観察される未知なる自然光学現象のメカニズム解明とその観光資源化	基盤研究(C)	北見工業大学
25	高関与消費者による観光行動の分析ー態度形成メカニズムの解明ー	基盤研究(C)	九州産業大学
26	持続可能な観光まちづくりに向けた価値創出を促すリーダーシップに関する研究	基盤研究(C)	九州産業大学
27	ツアー参加者の語りと商品分析からLGBTツーリズムの有用性を探る	基盤研究(C)	共栄大学
28	観光倫理学の発展に向けた理論的基盤の強化及び理論活用・教育手法の洗練に関する研究	基盤研究(C)	京都外国語大学
29	地域の観光人材育成と新たな「観光学ナラティブ」の生成に寄与する「地域芸術祭」の研究	基盤研究(C)	京都文教大学

研究課題名		研究種目	研究機関
30	バリ島の外庭テラジャカンの保全と活用：持続可能な観光産業の発展に向けた総合的分析	基盤研究(C)	公立鳥取環境大学
31	文化観光のエコシステム成立に係るメディエーターの役割	基盤研究(C)	城西大学
32	抵抗の手段としての観光資源化とその過程 鞆の浦架橋埋め立て問題を事例として	基盤研究(C)	仁愛大学
33	観光税の現状と課題について租税理論からの分析	基盤研究(C)	大東文化大学
34	引退競走馬の観光利活用の可能性	基盤研究(C)	多摩大学
35	文化遺産と防災：観光地における避難情報の伝達と防災拠点の計画に向けた実証研究	基盤研究(C)	帝京平成大学
36	国際観光・イベント振興における外交的側面に関する観光学的研究	基盤研究(C)	東海大学
37	ポストコロナ時代の劇場活用による地域再生	基盤研究(C)	東京藝術大学
38	自律的な地域参画を育むデジタル市民参加プラットフォームにおける評価指標の研究	基盤研究(C)	東京都市大学
39	観光地誘致圏の時空間特性を把握する探索的分析技術と動的可視化手法の構築	基盤研究(C)	東洋大学
40	18世紀英国風景画と自然保護の関係性評価―観光における芸術と自然の融合を目指して	基盤研究(C)	東洋大学
41	リノベーション型観光に現れる社会意識の国際比較調査に基づく観光社会学	基盤研究(C)	獨協大学
42	国立公園におけるCultural Landscape 評価方法の確立に向けた全国観光資源台帳研究	基盤研究(C)	長野大学
43	視線解析と感性評価による観光行動メカニズムの解明	基盤研究(C)	名古屋経済大学
44	観光行動の生涯発達に関する基礎的研究 一心理尺度開発と横断的調査による検討―	基盤研究(C)	新潟大学
45	整備・活用に関わるアクターから考える史跡の観光活用プロセスに関する研究	基盤研究(C)	阪南大学
46	高度経済成長期における温泉地発展のメカニズムに関する歴史研究	基盤研究(C)	一橋大学
47	テキストマイニングを用いたレビュー分析にみる観光地へのニーズと影響要因	基盤研究(C)	広島修道大学
48	海外における観光目的税の制度設計並びにそれが地域の観光経済に資する効果の検討	基盤研究(C)	北海道大学
49	AIチャットボットを活用したサービスリカバリー戦略：ホスピタリティ業界を対象として	基盤研究(C)	北海道大学
50	北方圏における国内観光振興を通じた先住民文化の啓蒙の可能性と課題	基盤研究(C)	北海道大学
51	アニメ・キャラクターコンテンツのローカル化を通じた持続的な地域振興に関する研究	基盤研究(C)	宮城学院女子大学
52	映像と音響の融合VR・ARによる超高臨場感バーチャル観光システム	基盤研究(C)	宮崎大学
53	「観光による地域活性化」にむけた顧客志向の受容プロセスの解明	基盤研究(C)	山口大学
54	観光旅行における事故・災害リスク低減のための情報システムアーキテクチャの研究	基盤研究(C)	大和大学
55	ドイツ・オーストリアの観光における「音楽」と「自然」の相関性に関する文化史的研究	基盤研究(C)	横浜国立大学
56	ユーラシアにおけるツーリズム・モビリティーズの現代的展開に関する研究	基盤研究(C)	立教大学
57	持続可能な観光のための環境保全と観光活用を統合した地域ゾーニングシステムの構築	基盤研究(C)	立教大学
58	現代のヘリテージ化における観光の影響に関する研究 一近代産業遺産を事例に―	基盤研究(C)	立命館大学
59	島嶼観光地域における観光と環境の統合的マネジメント	基盤研究(C)	琉球大学
60	リジェネラティブ再生デザインによるウェルネスツーリズム定義とモデル開発	基盤研究(C)	琉球大学
61	観光混雑における移動経路の分散に向けた情報提供のあり方と移動性の向上に関する研究	基盤研究(C)	龍谷大学
62	観光まちづくりを実践するための効果的手法の開発に関する研究	基盤研究(C)	和歌山大学
63	多様なステークホルダーによる海外ボランティア・ツーリズムの協働評価枠組みの構築	基盤研究(C)	和歌山大学
64	観光地域マネジメント推進体制における森林空間利用の進展と課題	基盤研究(C)	和歌山大学
65	地域創生の担い手形成に対する労働・余暇関係論からのアプローチ	若手研究	大阪観光大学
66	AIを活用した持続可能な地域モビリティ確保のための公共交通施策の提案と評価	若手研究	大阪産業大学
67	ライフスタイル移住プロセスモデル構築に関する研究	若手研究	沖縄国際大学
68	OTTサービス・コンテンツ経験による文化的親近性とデスティネーション信頼との関係	若手研究	沖縄国際大学
69	統計マイクロデータを活用した訪日外国人観光客の周遊パターンモデル開発に関する研究	若手研究	金沢大学
70	訪日外国人スポーツツーリストの意識変化と行動変容に関する実証研究	若手研究	公立小松大学
71	経験サンプリング法を用いた観光経験の縦断的な効果検証	若手研究	埼玉学園大学
72	事前期待と満足に着目したZ世代旅行者の観光心理過程の解明	若手研究	埼玉大学
73	観光地マーケティングにおけるベスト・ワースト・スケーリングの活用に関する研究	若手研究	高崎経済大学
74	周縁地域の持続可能な観光産業に向けたバンドル商品開発	若手研究	東京都立大学
75	国境地域における国際交流と観光の役割に関する研究	若手研究	同志社女子大学
76	PDCAサイクル確立に向けたWebデータに基づく宿泊実態の解明および地域性の分析	若手研究	日本大学
77	The Implementation of Sustainable Wine Tourism in Japan and Canada	若手研究	法政大学
78	フランスの山岳地域における脱ツーリズムの展開に関する研究	若手研究	北海道大学
79	人口減少問題に対する観光振興政策の効果に関する研究 一神奈川県三浦市を事例として―	若手研究	明治大学
80	観光の場における「ホスト／ゲスト」の流動化に関する社会学的研究	若手研究	立教大学
81	Exploring Hotel Customer Experiences in Japan via Big Data and Large Language Model Analysis	若手研究	立命館アジア太平洋大学
82	景観に着目した地理空間と来訪者意識の分析による御嶽の観光管理・活用の検討	若手研究	琉球大学
83	多目的地旅行における観光スポットの体験的・感情的特性と選択の関係	若手研究	琉球大学

(注)研究期間の開始年度が2024年度で、審査区分が「小区分80020：観光学関連」の83件を対象としている。

資料：科学研究費助成事業データベースをもとに(公財)日本交通公社作成

表 付記-3 科学研究費「観光学関連」の新規採択件数が2件以上の研究機関(2024年度)

研究機関	採択件数	研究種目	総配分額(千円)
沖縄国際大学	2	若手：2	7,800
金沢大学	4	基盤C：3、若手：1	16,900
九州産業大学	2	基盤C：2	7,800
東京都立大学	2	基盤B：1、若手：1	22,750
東洋大学	4	基盤B：2、基盤C：2	44,720
北海道大学	4	基盤C：3、若手：1	15,990
立教大学	5	基盤B：2、基盤C：2、若手：1	47,580
立命館大学	2	基盤B：1、基盤C：1	18,850
琉球大学	4	基盤C：2、若手：2	15,600
和歌山大学	4	基盤B：1、基盤C：3	28,990

(注)研究期間の開始年度が2024年度で、審査区分が「小区分80020：観光学関連」の83件を対象としている。

資料：科学研究費助成事業データベースをもとに(公財)日本交通公社作成